

地域畜産振興部門

宮崎県西臼杵郡高千穂町
高千穂地区農業協同組合 畜産部
(代表：佐藤 高則)

山間地域における肉用牛増頭の取り組み
-山間地という悪条件を克服し、地域ぐるみの力が生んだ「6,500頭」-



高千穂地区農業協同組合 畜産部のみなさん

宮崎県西臼杵地域では、多くの山間地域と同様に、過疎化、高齢化が著しく進んでいるという深刻な問題があったが、農協が中心となり、肉用牛振興による山間地域の活性化を図ることができた。

当地域は、肉用牛が主幹作目として位置づけされていたが、飼養農家の減少、頭数の伸び悩みが続き、平成9年末での繁殖雌牛飼養頭数は約5,500頭と減少していた。このような状況下で、農協では、肉用牛の増頭対策が地域の活性化につながるとの観点から最重点課題や目標を掲げ、翌10年より関係指導機関との連携による長期増頭計画を設定した。

増頭計画は、地域の実態に応じた具体的な目標設定を行い、この達成に向けて①国・県・町の事業への積極的な取り組み、②粗飼料確保対策、③肥育技術対策、④高齢者・後継者対策、⑤生産者支援・指導、⑥環境保全対策、⑦消費者対策などの多くの対策について、農協を中核にした関係機関との適切な連携により取り組んだ。

特に、粗飼料確保対策として、農協が隣県からの粗飼料を生産者に代わって収集・保管・提供する粗飼料供給体制の確立や放牧による地域資源の有効活用（西臼杵型放牧ネットワーク会の設立）など、山間地域という条件不利地域の生産を補うための対応が行われている。

高齢者対策では、「上野すけっと共生牧場」による"病気療養中の生産者からの一時受託"や"不妊牛のリハビリ受託"や「JA堆肥リサイクルセンター」での"ふん尿処理、完熟堆肥の供給"など、小規模・高齢農家の継続的な営農や合理化のために、極めて現実的な支援体制が整備されている。

また、肉用牛産地として確固たる地位を確立するため、JA肥育センターの枝肉情報などを活用した産肉能力の把握、優良産子の地元保留対策など、地域全体での優良雌牛群の整備に取り組み、その成果として、第9回全国和牛能力共進会では、当地域からの出品牛が名誉賞を受賞している。

このように、地域の関係機関や生産者集団の人的資源を最大限に活用するとともに、条件不利地域の生産基盤を補う活動および牛肉や完熟堆肥などの生産物の還元など、生産者への支援対策や肉用牛振興に対する理解促進により、目標であった繁殖雌牛飼養頭数6,500頭を達成するとともに、肉用牛が地域産業の柱として定着した。

本事例は、多くの山間地農業の持続性の確保と活性化のあるべき方向を示しており、その社会的貢献と意義が極めて高い。

- ▼高千穂家畜市場
農協畜産部の拠点。年6回の畜産市場を開催



- ▼銘柄確立
第9回全国和牛能力共進会（第2区、第4区）
で首席、名誉賞を受賞



- ▼ヘルパーによる牛の運搬
高齢者にも配慮した支援体制を確立



- ▼農協の粗飼料倉庫
農協が近県の生産組合から稲ワラ等を確保



- ▼西白杵型放牧
平成19年3月に「放牧ネットワーク」を立ち上げた



- ▼地元B-ΔΠΠPにおける高千穂牛の販売
地域に根づいた牛肉となっている

